

直轄管理区間の現地視察等に関するご意見についてのアンケート
設問 1-1) の地点別集計結果

[設問]

1. 現地視察を振り返って

1) 視察した地点の中で興味深かった、関心を持った地点について、 、 、 でお答えください。また、その地点を選ばれた理由をお教え下さい。

：大変興味深かった（関心を持った。）

：興味深かった（関心を持った。）

：ふつう

地点別集計結果

	視察地点	人	選んだ理由
第3回委員会現地視察	3- 円山川防災S (治水)	0	・ 円山川の水害対策の困難さが知られた。
		6	
		3	
	3- 野々庄～府市場 の堤防 (治水・景観)	2	・ いわゆる「完成堤防」を実見できた。これが一方で河畔林など自然環境の破壊を伴うことは遺憾。
		3	
		3	
	3- 上ノ郷河畔林 (環境)	6	・ 河畔林の多面的な価値を再認識した。現代の治水対策にも再利用されるべき。 ・ 円山川流域の河畔林の現状を知りたかった。 ・ 良好な自然環境が保たれているようで、その維持の重要性が感じられた。 ・ 河畔林が源流域の植物の種子が流れついて繁茂したことに関心を持った。 ・ 自然の風景が特別素晴らしい。
		6	
		1	
	3- 浅倉・赤崎地区 (環境・治水)	6	・ いわゆる「完成堤防」を実見できた。これが一方で河畔林など自然環境の破壊を伴うことは遺憾。 ・ 円山川の氾濫による被害経験を持ち、今も不安を抱えて生活されている方々の生の声が聞けた事に関心を持った。 ・ 円山川氾濫の現実を今も持ち続けている地理、地形であり、その対策に取り組んでいる現実性が伺えるから。
		3	
		1	
	3- 蓼川井堰 (環境・利水)	5	・ ここでサケなどの遡行がそしされないような対策が必要。 ・ 井堰の大きさと農業用水としての利用価値の高さ、雨で水量の多さもあったが忘れられない風景でした。 ・ 利水に供する役割を知るとともに、魚の遡上の観点から障害になっていること。 ・ この固定堰が洪水流や河床変動に及ぼしてきた影響を知りたいと感じます。
		7	
		1	

	視察地点	人	選んだ理由
第3回委員会現地視察	3- 出石川直轄上流端 (谷山川放水路含む) (治水)	1	-
		4	
		4	
	3- 六方川内水対策 (小野川放水路) (治水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 円山川の水害対策の困難さが知られた。 ・ 慢性的な床上浸水を解決する目的で創設された事業に対し治水の観点から非常に関心深く思われた。 ・ 円山川氾濫の現実を今も持ち続けている地理、地形であり、その対策に取り組んでいる現実性が伺えるから。
		5	
		3	
	3- 新田井堰 (環境・利水)	1	-
		5	
		4	
	3- 土淵より上流 (環境・景観)	0	-
		3	
		4	
	3- 八代水門・排水機場 (治水)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水門、排水機場の計画、操作について、本川と八代川の水位が複雑な関係にあること、また、整備の背景に過去の治水対策の経緯がある事に関心を持った。
		5	
		3	

	視察地点	人	選んだ理由
第4回委員会現地視察	4- 軟弱地盤 (八条ポンプ場) (治水)	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軟弱地盤は豊岡盆地全体の問題であり、大変難しい問題をはらんでいる。構造物を造る場合は岩盤の比較的浅い山王山、神武山周辺と右岸の梶原地域など東側（褐色安山岩）がよく安定するが、左側の西側の地域は豊岡累層の風化層で、中央部の沖積層と同様に軟弱地盤で危険地域である。 ・ 現場で一年間で1～2㍉の地盤沈下の実態をみて、大変な事態を抱えていることに驚き、対策があるのか、水害だけでなく地震対策としても考える必要があるのではないか。 ・ 円山川の水害対策の困難さが知られた。 ・ 豊岡盆地における軟弱地盤で八条ポンプ場の基礎部分の沈下状況を見て認識を新たにした。 ・ 軟弱地盤の状況が実際に確認できた。沈下の程度には驚かされた。 ・ 地盤沈下については、なお1cm/年程度の沈下が続いているのであれば、対策をとる必要があると思われる。仮に地下水の過剰汲み上げが原因であるとすれば、それを放置せず、水収支対策をとることによって、地盤沈下による各種施設等の修復のため将来的に発生するであろう多大なる経費の計上を予防する必要があると思われる。
		6	
		0	

	視察地点	人	選んだ理由
第4回委員会現地視察	4- 塩津の堤防 (治水)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当現地が円山川の歴史を想起させる重要な地点であることに関心を持った。 ・ 円山川の河道改修の歴史を知る上で重要な地点であり、往時の主流路が有していた洪水処理能力を推定する手掛けを与える場所ではないだろうかと感じました。 ・ 景観が良かったと思う。時々、魚釣りをする人も見かけるので、治水とそれを上手に利用した場所だと思う。
		5	
		3	
	4- 豊岡市内の廃川 (治水・景観)	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当現地が円山川の歴史を想起させる重要な地点であることに関心を持った。 ・ 気候・町並みからみてたいへん重要に役割を果たしているのを見ました。綺麗な川づくりが必要である。 ・ 景観上、まちづくりの観点から興味深かった。 ・ 円山川の河道改修の歴史を知る上で重要な地点であり、往時の主流路が有していた洪水処理能力を推定する手掛けを与える場所ではないだろうかと感じました。 ・ ランドスケープとして大変ポテンシャルの高い場所であると感じた。円山川の歴史上重要な空間である。
		6	
		4	
	4- コウノトリの郷公園 (環境・景観)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイガモ農法等人間の食も考えたコウノトリ野生復帰への取組。 ・ コウノトリ復活の大切さとその意味を市民が知り、考えて、行動している点。2005年放鳥後のコウノトリと農家との共生がどう定着していくか興味深い。豊岡市だけでなく、全国、全世界にその意味を知ってもらう必要を強く感じる。 ・ 豊岡盆地における人と自然の営みの象徴であるコウノトリ。コウノトリが棲息できる環境を目標とした取り組みがよくわかった。
		6	
		2	
	4- 六方川内水対策 (六方排水機場) (治水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 円山川の水害対策の困難さが知られた。
		7	
		1	
4- KTR鉄道橋 (治水)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 治水上の問題があることは理解できた。年月を経た鉄橋と橋脚の姿が味わい深く地域のランドマークになっていると感じた。 ・ 洪水時の鉄橋の挙動、即ち鉄橋流失に連動する破堤がある程度予測されるのであれば、被害甚大なだけに関係地区住民にはその危険性を十分認知させ、災害発生前の避難方法を知らせておく必要がある(既に措置済みとは思われるが)。橋脚地盤についても、今後の流域開発やダム建設等との関連で、河床の変動を予測して、対策をとっておく必要を感じた。 	
	5		
	1		

	視察地点	人	選んだ理由
第4回委員会現地視察	4- 野上の湿地 (環境・治水)	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 良好な自然環境が保たれているようで、その維持の重要性が感じられた。湿地の冠水と生物環境の関係が興味深かった。 ・ 干満差が小さく、出水時以外は水位が安定しているため、湿地復元に有利な状況にある事に関心を持った。 ・ 自然の風景が特別素晴らしい。
		6	
		1	
	4- 下鶴井のヨシ原 (環境)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヨシの群生に生きる小動物の棲息を知らされ感動しました。またそれを調査研究し大事にされている方々敬意を表し「小動物を大事にしない文化は人間も大事にしない」と思い、これでは人類に未来がない、自然との共存を強く感じました。 ・ 良好な自然環境が保たれているようで、その維持の重要性が感じられた。 ・ 自然の風景が特別素晴らしい。 ・ このような自然状態が保存されていることは案外知られていない。その保存対策をも含めてPRの方途が講じられないものか。 ・ ヨシ原の面積の広さに圧倒された。壮大な景観もさることながら、そこで暮らす生きものの営みを想像すると感動を覚える。
		8	
		1	
	4- ひのそ島 (環境・治水)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植生を考え、水流を考えた島造りに興味を持ちました。 ・ 今後の湿地環境がどのようになるのか興味深いところです。
		6	
		2	
	4- 左岸側無堤地区 (治水)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 円山川の氾濫による被害経験を持ち、今も不安を抱えて生活されている方々の生の声が聞けた事に関心を持った。
		7	
		2	
	4- 奈佐川 (治水)	0	-
		7	
2			
4- 一日市～宮島の堤防 (治水)	0	-	
	6		
	2		

 は、 : 大変興味深かった(関心を持った。)が5人以上とした。

複数地点にまたがる意見・全般に関わる意見

- ・ 3- 、 4- 、 、 、 、

これらの地点では円山川下流域の特徴が良く見てとれた。その多くが人間の利便性から見て不都合とされる自然条件だが、逆にそれこそこのとりを始めとする湿地や沼沢地に固有の生物を育んできたのであって、これを人工的に押さえ込もうとしてきたこれまでの考え方を改めることなしには「このとりの野生復帰」も本物にはならないのではないか。

- ・ 円山川が堆積土の上に成立し、したがってそのことが防災上の大きな課題になっていること。その反面この地質、地形上の特徴が特徴的な自然環境を形成していること。
- ・ 今まで意識して見たことがなかったので、興味深かった。
- ・ 現在まで、円山川を漠然としか見ていなかった。自分には10年に1回、また何年かに1回氾濫する川、これが円山川と思っていた。現地視察後感じた事は、例えば、上ノ郷の河畔林、下鶴井のヨシ原等、貴重な自然景観、動植物は今後も守っていくべきだと考える。
- ・ 流域に住む人々が受ける直接的な恩恵の中で利水は大切に大切なことである。その一端を確認できたことは大変よかったと思っています。
- ・ 治水対策としての円山川と自然の豊かさとしての円山川。両者の関係が見えそうな地点だから。
- ・ 円山川については多少勉強しており、あらためて関心をもつ場所は多くない。
- ・ 円山川下流域の地質・地形の形成と自然流水河川と人工河川の可否、人間中心の工法と自然の動植物に配慮しながらのあり方を知る上で重要拠点と感じたから